

**お堅い風紀委員長が
マジックミラー=風俗デビュー=♡**

基本CG8枚+おまけ2枚
差分込み 合計63枚



私はこの学校の風紀委員長、東條まや。
私がいる限りこの学校の風紀は乱れることはない。



男子
「よっ、東條。ちょっといいか？」

「どうかしたのか？」
(クラスメートの〇〇か。話しかけてくるなんて珍しいな。)

男子

「お前は知らないようだが、お前の実家の事を小耳に挟んでな……。」

(私の家の事?)

男子
「お前の親父さんの会社、経営がうまくいってなくて、かなりの借金を抱えているとか。このままだと年内にも倒産するとも聞いたぞ。」

「!? そんな話、聞いたことないぞ! 誰から聞いたんだ!？」



男子
「俺の親父の会社が、東條の親父さんの取引先だよ、いろんなところから借り入れているが、もうもたないって親父が言ってるな。」
「…そんなばかな…今確認してみる。」

「…お前のいう通りだった…知らなかった。」
(今月中にまとまったお金が必要と言っていたな…。)

「…それで、何の為にこんな話をしてきたんだ？何が目的だ？」

男子

「そんな警戒するなんて。少しでも借金返済の助けになろうと思っただけだ。
いい話があるんだけど、聞くか？」

「気乗りはしないが…教えてくれ。」



男子


「普通のバイトの何倍もの金を、短時間で稼げる仕事があるんだ。
お前の体をちよつと見せるだけで…」

「それって如何わしい仕事だろ！風紀委員長の私がそんなことできる訳ない！」
「よりによってそんな…破廉恥な！」

男子

「まあまあ、ちよつと谷間とか見せるだけだつて。お前の体ならすぐに稼げると思っせ。
すぐにまとまった金が必要なんだろ？話だけでも聞いてみるつて。」

(確かにお金は必要なんだ…。)
「くく…内容だけ教えてくれ。」



その男子によると、金持ち御用達の如何わしい店だという。
そこでは現役的女子高校生が働き、やり方によっては本当に大金が稼げるとか…。
怪しきしかないが、何としてもすぐに大金が必要なため迷ったが、
とりあえず話だけ聞きに、一度その店を訪問することにした…。

(とりあえず話だけと思つて来てみたが、
なし崩し的にお試しでやることになってしまった……)

(マジックミラーになっていて、こちらから客は見えないが、
客からは私のことが見える仕組みか……。
こっちもカーテンで仕切られてるから客以外、
周りからも私の様子は分からないわけね。)



「……まやと言います。よろしくお願ひします。」

(ここまで来たなら仕方ない……。どれくらい稼げるか試してやる……!)

(なるほど、説明は受けたけど、客は中からホワイトボードで色々要求してくるわけか。)
(どんな要求が来るか分からないが、お金のための
できる限りやってみよう。)



「じゃあ、ええと、一時間スペシャルコース？を始めますね。」

(この客が指定してきたスペシャルコースってやつが一番稼げると言われて、流れてこのコースになったのが…すごい不安だ…。)



ホワイトボード
『ミラーにキス お願いします』

(うっ…早速要求してきたか。
キスカ…このままミラーに口をつければいいのか?)

まやは要求とおり、ミラーにそつと唇をつける。

(相手が見えないから抵抗感思ったほどではない…かな。
とりあえずは無心でこなそう。)



(キスの経験がないから分からないな…。こんな感じかな?)

ぎこちなく唇をミラーに押し付けるまや

ホワイトボード

『もっとガッツリよろしく』



(も、もっと？ こんな感じか？
どんな顔になっているんだろう...。
見られていると思うとやはり恥ずかしいな...。)

舐め回すようなキス顔を晒すまや。
自分がどんな顔をしているかいまいち分かっていないまま、
ミラーをペロペロと舐め続ける。



ホワイトボード
『ブラジャー晒して押し当てて』

(…やはり「ういっ」要求もしてへるか。
借金返済のためだ…もう少し頑張ってみるか。)
「おいしゅ…これでもいいですか？」



上着を脱ぎ、シャツをはだけさせ、ブラジャーに包まれている
自分の巨乳をミラーに押し付ける。

ホワイトボード
『ブラジャー 外して』

(!?!? 下着までじゃないの?)
...さすがにこれ以上は...!

「ごめんなさい。これ以上は恥ずか...!」

ホワイトボード

『個人的に渡す いから10万円で連絡先0000』

(!?!? ...なるほど直接交渉ができるという訳か。
確かにこれならやり様によっては稼げるな。)

この風俗店は、金持ちが大金を使い、現役女子高生を
自分の思うがままにストリップさせることができる裏風俗だった。



(すぐにお金を稼ぐやり方なんて無いし、それならこの状況、できる限り稼がせてもらうのもありか...あとは自分次第...父さんのため、覚悟を決めるんだまや!)

「.....分かりました。じゃあ.....よしよし」と

覚悟を決めたまやは、自分の豊富な胸を客に向けて、ミラーに押し付けた。



(こつなれば大金を稼ぐには、
客を喜ばせるのが一番だな…よ、よし！)

「みんなのはどうですか？」



まやは、自分で巨乳を上下に動かし、アピールをする。

(乳首が擦れる…んっ。もう少しの辛抱だ…。)
現役女子高生のおっぱいが上下に動く。



自分の胸を見せつける行為なんて、普通な状態だと恥ずかしくて
逃げ出したくなるため、まやは無心でおっぱいを動かし続けた。

ホワイトボード
『開脚して 股よく見せて 10万円』

(ま、股!?)
...恥ずかしいけど、この調子でいけばお金が貯まる)

カガバツ

「...ありがとうございます。
よ、よく見えるようにつけますね。」
(こんな格好...我慢だ...!)

まやはパンツ姿になり、自分の股間をミラーに近づけ、
恥部辺りを押し付ける。

クマユ♡



ホワイトボード

『君いいね 奮発するよ』

(よろこんでくれているみたいだな……)

カガバツ

「ありがとうございます。」

え、遠慮せず……「要望くださいね。頑張ります。」

(「「」まで来たら、もっとお金をださせてやる……)

下品な格好を晒しながらまやは、心の中で気合を入れる。

クマコ♡



ホワイトボード

『パンツ 食い込ませて 20万』

(これ以上出すと見えちゃう……けど)

「は、はい。これでいいですか？」



まやは、パンツを股に食い込ませてミラーに押し付ける。
陰毛がパンツからはみ出し、恥部回りの肉が
ぷにゅミラーにくっつく。

ホワイトボード
『ずらしてまん「見せて 20万』

(中まで!?)

「う、うーん…これ以上はさすがに。」

ホワイトボード
『300万』

(!?!? パンツずらすだけで300万円…。
………「中まで来たんだ!」
「うなったらいける」と「中までいってやる!」



「分かりました…ありがとうございます。」
「じゃ、じゃあ、まやの大事なところ、
じっくり見てくださいね…。」



まやは、パンツをずらし自分のマンコを晒し、
そのままミソに押し付けた。
マンコの中がはつきり見えるよう開かれる。
(これで30万なんだ…。無心だ無心…。
でも、さすがにこれは恥ずかしい…。)

次の要望がホワイトボードに描かれる

『お尻突き出して 10万』

(今度は尻か……。私の体をとことん観賞するつもりだな。
……既にあそこまで晒しているんだ。
やれるところまでやってやるぞ……!)

ズイッ



「ありがとうございます。これでいかがでしょうか。」

まやは、下品に四つん這いの恰好になり、
自分の生尻を客に向かって突き出す。

(…他人に尻を晒す時が来るとは
…ああ恥ずかしい。)

体温が上がっているせい
か、まやの尻の熱気が立ち込める。

ホワイトボード
『そのまま押し付けて』



「は、はい。」

まやはパンツを脱ぎ、四つん這いの格好のままミラーに生尻をくっつける。肛門がピッタリと張り付き、恥ずかしいところを惜しげもなく晒す。

ミラー一枚越しに、女子高生の生の肛門を、しかも彼女自身が自ら披露するというのが、通常では考えられない光景が広がる。

ピトッ♡



(もつと金を出させないと……!)

「みんなのはどうですか？」

まやは自分の手で尻を掴み、グイグイとミラーに肛門を押し付ける。

とんでもなく卑猥な格好でアピールを続けていく。



ホワイトボード
『おっぱいを揺らせな...』

「は、はい、頑張ります。」
(きつい恰好だけど...お金のためだ...!)

まやは肛門を広げながら体を揺らし、
おっぱいを左右に揺らす。
重力と遠心力によって自慢の巨乳は下に伸び、
振り子のように揺れ続ける。



カーテンで仕切られている個室の中、
普段の学校内の姿からは想像できない醜態を晒している。
まやは、この異常な状況により興奮状態に陥っているため、
下品な格好をすることへの抵抗感が薄れてしまっている。

(つ、次の依頼はなんだ…?)

ホワイトボード
『次は 全裸でこっち向いて 10万』



まやは、言われた通り、生まれたままの姿になりミラーの前に立つ。
ここに来て少し冷静になり、恥ずかしい気持ちがかみ上げてきたため、
とっさに恥部を隠す。



(ここまできてなんだが、
改めて全裸を見られるというのは、やはり恥ずかしいな……。)

ホワイトボード

『隠さないで、がに股で下品なポーズを 30万』

(よ、よし。30万だ！
時間も迫ってきたし、最後にもうひと踏ん張りだ……！)



気合を入れ直し、要求された格好を取るまや。

「……こんな格好でいいですか？」

足も脇も大きく開き、自分の恥ずかしい部位を
全てさらけ出す恰好になる。

ここまで様々な醜態を晒してきたが、
何も隠さないこの恰好もかなり恥ずかしく、
心が折れそうになるまや。



(んん…こんな恥ずかしいポーズ取ったことない…!!)
「いかがでしょうか…??」

両手でピースサインを作り、アへ顔を晒す。

ホワイトボード

『良い恰好してるよ こんな恥ずかしい姿
他人に見せるなんて よっぽど変態なんだね』



(私が変態……!?)

(はっ!)

はっと我に返ると、目の前のマジックミラーに反射する、
誰がどうに見ても変態な格好をしている自分の姿が映っていた。

(わ、私は、お金のために、父さんのために……！
……でもお金のためとはいえ、
確かに見ず知らずの人にこんな破廉恥な恰好を……！)

客の意見により急に我に返ったことでタガが外れ、
これまで抑えていた感情が羞恥心と共に一気にこみ上げ……。



「ああ……っ！ いやっ！ ダメっ！」
「イクっ……！！！」

まやは、下品なポーズのまま絶頂に達してしまった。

翌日

(昨日は疲れた…一応お金は手に入ったし、あの店での稼ぎ方も分かった。確かに最短で稼ぐにはもってこいではあったな…けど)

(くっ…思い出すだけで体が熱くなる…!)

男子
「よう、東條。昨日はどうだった？」

「あ、ああ…やはりあの店は駄目だ！破廉恥過ぎる！」

男子

「俺は店の前にしか付いていなかったからな。もしかして東條、お前…。」

「し、知らん！」



(…とりあえず父さんに会社の復興に必要な金額を聞いて、もし必要とならば…またあの店に…しかし)

それから数日後、あの店内に、どんな要望にも応えてくれる黒髪長髪で釣り目の女子高校生が在籍したと噂になり、件の彼女は金持ちの太客達の間で評判となった。

その後、東條父の会社については、突然現れた資産家が資金援助を申し出たことで倒産を免れたというが、それはまた別のお話…。

終

次回作について：ラフ絵①

こんにちは、わらびもちです。
この度は本作をご購入いただきましてありがとうございます。ございました。

次回作は今作同様、東條あや本の予定でして、
催眠(もしくは弱み握る系?)によって
またまたエッチな姿を披露してもらおうかと考えています。



次回作について：ラフ絵②

今回はこんな感じの「壁尻」を書いてみたいです。
8月中の発売を目指し、作成中ですので、
また御覧になってもうえたらとても嬉しいです。
では、また！

